

**文庫あれこれ**◆ほのかに甘い匂いが漂ってくるような紅梅を窓から眺め、文庫に着くと、河津桜が6分咲き?でもまだ、ヒメシヤラは芽吹いていません◆“この宮の森の木下に こどもらと 遊ぶ春日は 暮れずともよし”良寛の春が待たれます。◆新聞をみていると、当たり前のごとで、日々人が亡くなっていきます。数日前、絵本作家のトミー・ウンゲラー死亡記事が。私年代のおかあさんでも子や孫にせがまれ読んだ記憶があるのでは?『すてきな三にんぐみ』『ゼラダと人食い鬼』ほかたくさん。たくさんの子もまた心の心にそれぞれ強い印象を残した人でした。文庫にも何冊もあります(別置します)。◆美術に疎い私も名前だけ知っていた堀文子さんが100歳で逝去。彼女の精神「群れない、慣れない、頼らない」を改めて自らにも刻みたいですね。◆芥川賞・直木賞受賞作が発表されましたが、今回はついていけないというか、食指が動かさず入庫パスしました。どなたか読んで面白かったら教えてください。◆物語(フィクション)でも、年を取ると、まったく離れた世界での出来事は冷静に受け止められますが、すぐそばに起こるような営みに心をざわつかせたくない気がしています。心があたたかくなる、うれしくなるお話がいいですね。◆それでも、自分がなんて安穩に無関心に生きてきたのかと思わざるを得ない体験には、これからも出会い真摯に目を向けなければ、と思います。◆先日、子どもの本(ピーティ ID4662)の書評を書く際、目についた新聞広告本『こんな夜更けにバナナかよ』ID17785で今月入れましたも読んでみました。ピーティは脳性麻痺で顔も体も手足も奇形に生まれたため、知的障害と判断され信じがたい人生を送った(でも最後は違います!)物語でしたが、この本は、筋ジムの鹿野靖明さんと彼を支えたボランティアとの日常を描いたノンフィクションで映画化され上映中。病を持った人の周りにいる人について色々考えさせられました。自分のこれからも含め。◆表紙下の神楽舞は、幸せを求め災いを防ぐ神楽として、自分たちのところだけでなく、近隣の地区神社を奉納してまわることで、近隣お互いの住民の心を和ませ心を通わせているそうです、よい風習ですね。◆朝はどんよりしていましたが、太陽が顔を出しました(16日8:50)。伸びをして、足腰伸ばして、今日も1日よい日でありますように♥ (西村)



◆◆2019・今後の開館スケジュール◆◆

- ◆3月は通常 16日(土)と17日(日)
  - ◆4月は通常 20日(土)と21日(日)
  - ◆5月は変則 18日(土)~20日(月)
    - 18日(土)は変則 10:00~13:00
    - 19日(日)も変則 13:00~17:00 まで
    - ★若葉のころのおはなし会★
    - 大きい人向け: 5月18日 13:30~16:00
    - 小さい人向け: 19日午前 10:30~12:00
    - ゲスト: 全日本語リネットワークの方々
  - ◆6月は通常 15日(土)と16日(日)
  - ◆7月は通常 20日(土)と21日(日)
    - ★第19回海の日のおはなし会★
    - 21日夕・於: 伊豆高原駅クスノキの下
    - ★開館記念子どものおはなし会★
    - 22日(祝) 10:30~12:00 於: 沙羅の樹文庫
  - ◆8月は延長 17日(土)~20日(火)
  - ◆9月は通常 2日(土)と22日(日)
  - ◆10月は通常 19日(土)と20日(日)
  - ◆11月は通常 16日(土)と17日(日)
  - ◆12月は通常 21日(土)と22日(日)
    - ★クリスマスお楽しみ会: 22日午前★
- ※毎月開館日の日曜には、「子どものための小さなおはなし会」があります。  
午前10:30~11:00♥  
《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》  
みんなで勉強会(おはなし・沙羅)は、  
毎月開館日の土曜 11:00~13:00
- ※文庫は原則第3週の日曜日とその前日の土曜日です  
※文庫の時間: 土曜日は午後2時~5時、  
日曜日は午前10時~午後3時

沙羅の樹文庫

〒413-0235 伊東市大室高原7-122  
HP:saranokibunko.com

さらのきぶんこだより

No.151-1 (2019年2月号)



1月下旬、初雪散らつく錦帯橋(山口県岩国市)・

金子進一さんの川柳  
いい笑顔 周りの人も コピーさる 課題「コピー」から  
寝てられぬ 孫はジャンプが 得意技 課題「おちおち」から  
言い過ぎた その日はそつと お茶を出し 課題「補う」から

熱心な読書家・金子さん、川柳始めてまだ数年と伺いますが、お人柄の温かさ、ほっこり感 癒されます! ありがとうございます!



岩国市錦町・上沼田神楽(うめだかぐら)

北の国から No.12

〜糠漬けは宝探し〜

亜子

『もうレシピ本はいらない 人生を救う最強の食卓』(稲垣えみ子著 マガジンハウス 2017年刊)

帯にテカテカと”第五回 料理レシピ本大賞 IN JAPAN” エッセイ賞受賞とあり、読みたいという気持ちがあるがムラムラとわきあがり、さっそく買いました。

著者は朝日新聞の論説委員、編集委員をつとめ2016年に50歳で退社。もったいないほどの経歴と給料をもらいながら、惜しまれつつ退職したのです。アフロヘアで有名な名物記者でもありました。その人がなぜ、安定した一流企業の朝日新聞社を辞めてまでフリーの身にあこがれたのか。独身、子なし、冷蔵庫なしの生活です。それで料理本を書いたって、どういこと?

前書きによると、50歳になったのを機に会社を辞めて、約1年が過ぎた。会社を辞めるってことは給料がもらえなくなるということだ。そう、ロクな成果を挙げられなくても、上司と勇ましくケンケン対立しても、結局は給料日さえ来れば銀行口座に自動的にお金が振り込まれていたあのミラクルな日々! ああそれはもう終わったのである。なので、ほとんどの人から“モッタナイ”と言われた。いやいやいいんです。私はお金より時間を取ったんです!…と言ったもの、誰よりも私が一番ファンであった」とあります。

もちろん退職金も並みのサラリーマンとはケタ違いに多かったことでしょう。ですが、お金というのはいくらあっても、これでいいということがありません。もっともっと欲しいという人間のあくなき欲望を私はいやというほど見てきました。だから、ほとんどのサラリーマンは、お金に縛られやたかたかしない仕事にも我慢し、屈辱にも耐え、時間を買って生きています。稲垣さんも不安だったと書いていますが、このファンを彼女はどのように解決したのか。それは自分で料理する力でした。自分で工夫すれば、一食200円で創意満点、自分にしか作れないおいしい料理を作り出すことに気がついたのです。それはどんな料理か。

ごく普通に、玄米ご飯を炊き、梅干しをのせ、野菜を干し野菜にし、味噌汁をつくり、糠みそに野菜を埋め込み三食食べるだけなのです。そこにもう少し彩りが欲しければ、お鍋に2センチほどの油をひき、天ぷらにしたり、揚げ物を作ったりします。油は決して残りません。使い切りの量だけの油をひいて作ります。私は油が余るのがいやで、何十年も天ぷらというものを作っていませんでしたが、この本を読んでから、ちょっと贅沢ですが、オリーブオイルを使ったホタテの天ぷらやニンジン、たぶらに挑戦して、ああ、なんておいしいんだろう!と驚いています。

それともう一つは、主婦なら、なーんだ、と思われのかもしれないが、糠漬けです。この本にはおいしい糠漬けを作るコツが盛りだくさん。冷蔵庫でも作れる糠漬けセット(「漬けもん屋のぬか床」)をさっそく買って、ニンジン、白菜、長芋、長ネギなど埋め込んで楽しんでます。掘り出すときは宝さがしの心境です。稲垣さんは、「自由にやらしたものは、お金でもなく資産でもなく、特別な才能でもない。“料理”だったんです」と書いています。「料理をする力」はいざとなれば、自分ひとり、十分食べていける、自分を幸せにできる力を秘めたものだったことに気が付いて彼女は本当の自由を得たということです。この人は電気を極力使わない、ガスを使わない、鍋は一つでいい、冷蔵庫はいらない、というようにエコ生活でも極端なくらいストイックな生活を実践しています。ここまではできませんが、私もなんだか、お金がない、という恐怖からは少し解放されました。面白くて役に立つ料理本です。

★ ★ ★ ★ ★

〈チャリングクロス街84番地〉に出会ったしあわせ

(中西 景子)

新年の文庫の新刊の棚に、この本『チャリングクロス街84番地―書物愛する人へのための本―』(ヘレン・ハンフ著 江藤淳訳 中公文庫 1984.10刊)を見つけて、うれしくて手に取りました。

アメリカ・ニューヨークに住む女性が、ちょっと遠くの本屋さんに自転車で行くよりも、いっそイギリスの古本屋さんに頼もうと、「1冊5ドルを超えない本で、汚れていな

い古書があれば」という依頼の手紙を送ります。そこから、すてきな交流が生まれるのです。

戦後のロンドンでは、卵も一人1ヶ月に1個という、配給制の食糧難であることを知って、本代を送るときに、食品や女性のストッキングなどを、詰め合わせて送ります。人から届く荷物って、うれしいものですね。結婚してすぐの貧乏だった頃、実家の母から届く荷物が「とってうれしかった」私です。実家は埼玉県大宮、アパートは神戸の住吉町でした。5才上の姉が若い頃ニューヨークにいて、母は、のりとかつくだ煮とかと一緒に、有吉佐和子とか婦人公論などを入れて、よく荷物をつくっていました。50年以上前の話ですが、それから間もなく、アメリカの図書館で日本語の本や雑誌を読めるの聞いて、びっくりしました。日本の図書館との違いに驚いたのです。今でも私は「小さな荷物」を送ったり、いただいたりするの大好きです。チャリングクロス街を読んで、いろいろなことを思い出しました。

この本を読んですぐ後に、お友だちから、「官脇綾子作品展」の本をお借りしました。これももう40年位前に、デパートに作品展を見に行った、大好きな手芸作品で、「なつかしく」見入ってしまいました。もう亡くなっている方ですが、古いけれども、本の中で好きなものに出会えるのは幸せなことでした。布のアップリケなのですが、布の色、柄、材質がすてきな絵になって、やさしい気持ち、ほっこりした気持ち、力強さを感じられます。忘れていた大好きなものに久しぶりに出会えて嬉しい時間になりました。新しい作家や作品になかなかなじめないのですが、「それでいい」、古くても好きなものがやはり心地いいと、改めて思いました。

★子どもの本(テムズ川は見てID12879)の書評を書く時、その物語の背景に、この本のタイトル・チャリングクロスという場所が頻りに出てきたので、買った本。でも読む時間がなくてすぐ文庫に入れました。読んでくれた人がいて嬉しかったのに重ねて、この文章を読んで、あ、この話、よく知っている!! 役者だった語りの仲間の、当たり役だった! 印象深い戯曲だったのです。この本を取り上げてくれた中西さんに感謝。(さら)

## 2019年2月に入った子どもの本

### 絵本

『どんなかんじかなあ』(中山千夏ぶん 和田誠え自由国民社) ID12966  
 『ナージャの5つのがっこう』(キリーロバ・ナージャぶん 市原淳え 大日本図書) ID12975  
 『なんげえ はなしっこしかへがな』(北彰介文 太田大八絵 BL 出版 2018) ID12967  
 『まめつぶこそうパトゥフェ』(宇野和美文 ささめやゆき絵 BL 出版 2018) ID12968  
 『金の鳥ーブルガリアのむかしばなし』(八百板洋子文 さかたきよこ絵 BL 出版 2018) ID12969  
 『Michi(みち)』(Junaidell 著 hal udell 装幀 福音館書店 2018) ID12972  
 『視覚ミステリー』(ウォルター・ウィック作 林田康一訳 あすなろ書房) ID12932

### 読み物

『ころころくんと消えた時間』(林原玉枝文 富山房インターナショナル 2018) ID12929  
 『ねこの町の本屋さんーゆうやけ図書館のなぞ』(小手鞠るい作 くまあやこ絵 講談社 2018) ID12930  
 『ぼくは本を読んでいる。』(ひこ・田中著 講談社 2019) ID12970  
 『ある晴れた夏の朝』(小手鞠るい著 偕成社) ID12974  
 『ハートウッドホテル1 ネズミのモノと秘密のドア』(ケイリー・ジョージ作 久保陽子訳 高橋和枝絵 童心社 2018) ID12971  
 『おやすみの歌が消えて』(リアノン・ネイヴァン著 越前敏弥著 集英社 2019) ID12973

### 参考図書

『結び蝶物語』(横山充男作 あかね書房) ID12940  
 『戦国武将伝 怒の巻』(藤咲あゆな著 ホマ蔵絵 ポプラポケット文庫) ID12941

### 科学読み物

『赤はな先生に会いたい!』(副島賢和著 金の星社 2018) ID12942  
 『女の子だって野球はできる!』(長谷川晶一著 ポプラ社 2018) ID12943

## 2019年2月に入った大人の本

### フィクション他

『夢も見ずに眠った』(糸山秋子著 河出書房新社 2019) ID17778  
 『逃げてゆく水平線』(ロベルト・ピウミーニ著 長野徹訳 東宣出版 2014) ID17779  
 『ひと』(小野寺史宜著 祥伝社 2018) ID17789  
 『もうレシビ本はいらないー人生を救う最強の食卓』(稲垣えみ子著 マガジンハウス 2017) ID17780  
 『花と料理ーおいしい、いしい、365日』(平井かずみ、渡辺有子、大段まちこ共著 リトルモア 2018) ID17781  
 『骨まで愛してー粗屋五郎の築地物語』(小泉武夫著 新潮社 2018) ID17782  
 『まど・みちお人生処方詩集』(まど・みちお詩と絵市河紀子選訳 平凡社) ID15542

### 生き方

『目は若返るー50歳からの眼科治療』(佐藤香著 幻冬舎 2016) ID17755  
 『目のトラブル相談室ーこれで解決!』(井上賢治/若倉雅登編 共同通信社) ID17756

『考える人 2014年春号 一特集:海外児童文学再び』(河野通和編集 新潮社) ID11163  
 『ヴァージニア・リー・ハートンのちいさいおうちー時代を超えて生き続けるメッセージ』(ギャラリーエークウッド) ID12934

## 広瀬おばさんからいただきました。19-2

### 絵本

『いないいないばあ(松谷みよ子あかちゃんの本)』(松谷みよ子文 瀬川康男画 童心社) ID12931  
 『そうきばやしのすもうたいかい』(広野多珂子作 廣野研一絵 福音館書店) ID12932  
 『漢字はうたう』(杉本深由起詩 吉田尚令絵 あかね書房 2018) ID12953  
 『幸せになあれ』(弓削田健詩 松成真理子絵 瑞雲舎 2018) ID12961  
 『ねすみくんのうんどうかい』(なかえよし作 上野紀子絵 ポプラ社 2018) ID12963  
 『さやかちゃん』(くすのきしげのり作 こばようこ絵 ポプラ社 2018) ID12964  
 『ゆうなとスティビー』(堀米薫さく 丸山ゆきえ ポプラ社 2018) ID12962  
 『てんぐ』(杉山亮作 加藤休ミ絵 ポプラ社 2018) ID12960  
 『キラキラッとほしがかがやきました』(宮西達也作・絵 ポプラ社 2018) ID12959  
 『やきいもや』(ながいいくこ作 くすはら順子絵 ポプラ社 2018) ID12958  
 『じめんのしたにはなにがある』(中川ひろたか文 山本孝絵 アリス館 2018) ID12957  
 『トーマス、バスになる?』(ウィルバート・オードリー原作 ポプラ社 2018) ID12944  
 『クレーンからおりなさい!!』(ティベ・フェルトカンブ作 アリス・ホップスタート絵 のざかえつこ訳

### 新書

『なぜ人と人は支え合うのかー「障害」から考える』(渡辺一史著 ちくまプリマー新書 2018) ID17784  
 『日本が売られる』(堤未果著 幻冬舎新書 2018) ID17758

### 文庫

『家族の言い訳』(森浩美著 双葉文庫) ID17786  
 『こんな夜更けにバナナかよー筋ジス・鹿野靖明とボランティアたち』(渡辺一史著 文春文庫) ID17785  
 『炎の色 上・下』(ビエール・ルメートル著 平岡敦訳 ハヤカワ文庫) ID17787、17788  
 『夫の墓には入りません』(垣谷美雨著 中公文庫) ID17790

## 寄贈いただきました!

### 生き方

『寿命の9割は腸で決まる』(松生恒夫著 幻冬舎新書 2018) ID17757  
 『ふがいない自分と生きる』(渡辺和子著 NHKE テレビ「こころの時代~宗教・人生~」金の星社 2018) ID17759

### 文庫

『鹿鼎記 1~8』(金庸著 岡崎由美/小島瑞紀訳 徳間文庫) ID17761~68  
 『誘拐犯はそこにいる』(メアリ・H・クラーク著 宇佐川晶子訳 新潮文庫) ID17771  
 『リメンバー・ハウスの闇のなかで』(メアリ・H・クラーク著 宇佐川晶子訳 新潮文庫) ID17772  
 『消えたニック・スペンサー』(メアリ・H・クラーク著 宇佐川晶子訳 新潮文庫) ID17775  
 『君八僕のモノ』(メアリ・H・クラーク著 宇佐川晶子訳 新潮文庫) ID17776

レーベル館 2018) ID12949  
 『わたしのおじさんのロバ』(トビー・リドル作 村上春樹訳 あすなろ書房 2018) ID12951  
 『ことばすかんだわん!』(ドロテ・ド・モンフレッド作 内村尚志訳 偕成社 2018) ID12950  
 『実物大!世界のどうぶつ絵本』(ソフィー・ハン作 藤田千枝訳 あすなろ書房 2018) ID12954  
 『あめのひ』(サム・アッシャー作・絵 吉上恭太訳 徳間書店 2017) ID12948  
 『かぜのひ』(サム・アッシャー作・絵 吉上恭太訳 徳間書店 2018) ID12952  
 『不思議な尻尾のカティンカ』(ジュディス・カー作・絵 徳間書店 2018) ID12947  
 『村じゅうみんなで』(ヒラリー・ロダム・クリントン文 マーラ・フレイジャー絵 徳間書店 2018) ID12945  
 『私はどこで生きていけばいいの?』(ローズマリー・マカーニー文 西田佳子訳 2018) ID12955  
 『僕、アーサー』(井上こみち文 堀川理万子絵 アリス館 2018) ID12965  
 『ごちそうの木-タンザニアのむかしばなし』(ジョン・キラカ作 さくまゆみこ訳 西村書店 2018) ID12946

### 読み物

『ほうけんはバスにのって』(いとうみく作 山田花菜絵 金の星社) ID12938  
 『逆転! ドッジボール』(三輪裕子作 石山さやか絵 あかね書房) ID12935  
 『モツ焼きウォーズー立花屋の逆襲』(ささきかつお作 イシヤマアズサ絵 ポプラ社) ID12937  
 『春に訪れる少女』(未だ給里香作 くまおり純絵 文研出版) ID12936  
 『ひいな』(いとうみく作 小学館) ID12939

## 文庫だより 15-1-2

『さよならを言う前に』(メアリ・H・クラーク著 宇佐川晶子訳 新潮文庫) ID17777  
 『魔が解き放たれる夜に』(メアリ・H・クラーク著 安原和見訳 新潮文庫) ID17773  
 『見ないふりして』(メアリ・H・クラーク著 深町真理子訳 新潮文庫) ID17774  
 『恋人と呼ばせて』(メアリ・H・クラーク著 深町真理子訳 新潮文庫) ID17760

## 徒然なるままに・・・

表紙の写真と文庫あれこれの写真は、1月終わりに岩国・周防を旅した主人撮影のものです。次の週、2月2日主人と1泊で鹿児島の西郷どんゆかりの温泉宿(南洲館)に行ってきました。栗野岳中腹にあるひなびた秘湯でしたが、3つ温泉があり、2つはとても熱く、あとの1つは、暗闇の中、洞窟を進んでいくと湯舟かと思いきや、突き当りに粗末な長椅子。サウナ?! 5分ほどでのぼせり、退却。でも体がいつまでも温かでした。主人はこの旅館の蒸し鶏が気に入って3度目。夜更けて満天の星! 帰りは、西郷さんに教えてもらって、竜馬がおりようさんと、寺田屋での湯を癒した塩湯温泉(天孫降臨由来の地を流れている天降川辺にある)に寄りました。新婚旅行発祥の地(竜馬+おりようさんのはじめての旅)として名高いとか。下の写真は、道路わきに並ぶ、霧島・横川地区の屋根付き墓地です。この土地の人はお墓を大切にしている、歴史的、風習的に何か特別な意味があるのかしらと思ったら、桜島の噴煙灰を避けるためだとネットで知りました。今月はちよい旅の感想で・・・。(さ・ら)



